

高齢者の地域の居場所と居場所感が形成・向上する方法についての研究 — 産直から学ぶ居場所づくりの在り方 —

社会福祉学科 コミュニティ福祉系 尾形由稀菜

本研究では、「産直」の活動から高齢者の地域の居場所と居場所感の要素、居場所感を形成・向上するための方法等を明らかにし、地域活動における居場所づくりの在り方について考察することを目的とした。

居場所を「日常生活の場の中で、1人あるいは他者との交流によって安心感や自己受容感、解放感といった精神的充足感が得られる場所」と定義し、構成要素を4つ設定した。観察およびインタビューで得られたデータから、産直の活動者が感じている「居場所」やその要素等の共通点・相違点を明らかにし、活動のプロセスとオーガナイザーによる働きかけの関連性にも着目した。その上で、「活動団体別の居場所モデル」と最終的な「地域における高齢者の居場所モデル」や居場所感を形成・向上するための方法を考察した。

課題として、限られた時間の中で調査を行ったため、調査団体別の「オーガナイザーの働きかけの経緯」や「居場所感のモデル」に関してははっきりとしたことが断言できないという点を挙げた。